

# 人工妊娠中絶ノ統計的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/31118">http://hdl.handle.net/2297/31118</a>

原 著

人工妊娠中絶ノ統計的研究

(十二月四日受附)

金澤醫科大學衛生學教室(主任星野教授)

學 生 渡 部 猛

目 次

- 一、緒 言
- 二、人工妊娠中絶ノ頻度
- 三、人工妊娠中絶ノ適應症
- 四、人工妊娠中絶ト妊娠順位
- 五、人工妊娠中絶月數

一、緒 言

人工妊娠中絶問題或ハカノ避妊問題ハ當ニ醫學的方面ヨリノミナラズ、社會道德方面、國家經濟的方面ヨリモ論究セラレツツアルトコロナルガ、コレガ解決ハ一朝一夕ノコトニ非ザルコト勿論ナリ。今後該方面ニ於ケル醫術ノ進歩

- 六、妊婦ガ診テ乞ヒシ當時ノ妊娠月數
- 七、人工妊娠中絶患者ノ年齢別及ビ結婚年齢別
- 八、人工妊娠中絶患者ノ出産回數及ビ兒童數
- 九、人工妊娠中絶患者ノ職業別
- 一〇、總 括
- 一一、文 獻

及ビ社會生物學的研究ノ發達ニ伴ヒ、益々合理的ニ研究解決セラルベシト思惟スルモノナルガ、今該問題ノ現在ニ於ケル状態ヲ有リノ儘ニ、統計的ニ觀察スルハ、蓋シ無益ノ業ニ非ザルベシ。必ズ研究ノ一資料タルヲ信ズルモノナリ。余偶々昨夏三重縣富田濱飯田病院ニ於テ見學中、同病院ノ外來入院患者名簿ヨリ最近（大正十三年八月ヨリ昭和二年七月ニ到ル三年間）取扱ハレタル人工妊娠中絶患者ノ記録ヲ抽出シ、之レニ就テ統計的觀察ヲ試ミタリ。勿論一病院ノ材料ヲ以テ全般ヲ推斷シ得ザルコト明カナルガ、此ノ問題ノ一端ニ觸レ以テ研究者ノ批判ニ一資料ヲ供スルヲ得バ、余ガ目的ハ即チ達スルモノナリ。

## 二、人工妊娠中絶ノ頻度

同病院ニ於ケル人工妊娠中絶數ハ一年平均二一六七ニシテ、ソレノ患者總數、女性患者總數、婦人科患者數、妊娠婦人數等ニ對スル比ヲ求ムレバ第一、第二表ノ如シ。

第一表 人工妊娠中絶ノ頻度

	三年間總數	一年平均
患者總數	34802	8701
女性患者數	18651	4662
婦人科患者數	2115	705
妊娠婦人數	484	161
人工妊娠中絶患者數	65	22

第二表 人工妊娠中絶頻度(比率)

$\frac{\text{人工妊娠中絶患者數}}{\text{患者總數}}$	0.19%
$\frac{\text{人工妊娠中絶患者數}}{\text{女性患者數}}$	0.35%
$\frac{\text{人工妊娠中絶患者數}}{\text{婦人科患者數}}$	3.07%
$\frac{\text{人工妊娠中絶患者數}}{\text{妊娠婦人數}}$	13.43%

偕テ、男女兩性ノ病院訪問ノ割合ニ關スル真相ハ未ダ憑據スベキ材料少キガ、一般ニ病院ノ統計ニヨレバ、ソノ數ニ於テ男性ハ女性ヲ遙ニ凌駕スルモノノ如シ。(1)(2) (第三表、第四表、第五表、第六表參照)

第三表 自大正11年1月至大正14年8月 金澤醫科大學附屬醫院外來患者數 (久慈博士調査)

	大正11年	同 12年	同 13年	同 14年	平 均
患者總數	61832	94480	101875	65831	81002
男性患者數	35059	53846	57155	37944	46001
女性患者數	26764	40634	44720	27887	35001
男女ノ差	8295	13212	12435	10057	11000
總數ニ對スル差ノ比率(千人ニツキ)	134.43	139.83	122.06	152.76	137.27

第四表 岩手病院ニ於ケル外來患者數 (久慈博士調査)

患者總數	12204
男性患者數	8720
女性患者數	3484
男女ノ差	5236
總數ニ對スル差ノ比率(千人ニツキ)	429.04

第五表 自1917年至1921年 愛知病院ニ於ケル外來患者數 (謙田氏調査)

	1917年	1918年	1919年	1920年	1921年	平 均
患者總數	8162	9478	10177	9790	9403	9462
男性患者數	5241	5981	6197	5902	5590	5782
女性患者數	3221	3497	3980	3888	3813	3680
男女ノ差	2020	2484	2217	2114	1877	2102
總數ニ對スル差ノ比率(千人ニツキ)						222.15

第六表 自大正13年8月至昭和2年7月 飯田病院ニ於ケル外來患者數 (渡部調査)

	大正13年	同 14年	同 15年	昭和2年	平 均
患者總數	3056	11470	11360	8916	8701
男性患者數	1492	5014	5157	4488	4038
女性患者數	1564	6456	6203	4428	4663
男女ノ差	72	1442	1046	60	625
總數ニ對スル差ノ比率(千人ニツキ)	23.56	125.72	92.08	6.73	71.83

即チ久慈博士が金澤醫科大學附屬醫院ニ於テ、大正十一年ヨリ大正十四年迄ニ調査セラレタル結果ニヨレバ、女性一〇〇〇人ニツキ男性一三七〇人ニシテ、岩手病院ニ於ケル調査ニ於テハ、女性一〇〇〇人ニツキ男性一四二九人ヲ示ス。又鎌田氏が一九一七年ヨリ一九二二年迄ニ愛知醫科大學附屬醫院ニ於テ調査セラレタル結果ニヨレバ、女性一〇〇〇人ニツキ男性一二二二人ノ割合ヲ示ス。然ルニ余ノ飯田病院ニ於ケル調査ニ於テハ、男性一〇〇〇人ニツキ女性一〇七二人ノ割合ヲ示シ女性患者著シク多シ。コハ當病院が現在ノ全科病院トナレル以前ニ、婦人科専門ノ病院ナ

リシ關係ヨリ結果セルモノナラント思ハル。前出第二表ガ示ス數字ノ如キハ此ノ立場ヨリ見ラルベキモノナリ。

### 三、人工妊娠中絶ノ適應症

現今我ガ醫學界ニ於テ論ゼラルル人工妊娠中絶ノ適應症ヲ大別スレバ、

#### 一、醫學的適應症

#### 二、優生學的(民族衛生學的)適應症

#### 三、社會的適應症

ノ三種ニ分類スルコトヲ得。<sup>(3)</sup><sup>(4)</sup>

優生學的適應症及ビ社會的適應症ニ關シテハ贊否兩様ノ議論アリテ、我國ニ於テハ今尙ホソノ實施ハ法律ヲ以テ禁ゼラルトコロナリ。

今日ニ於テハ醫學的適應症ノミガ醫師ニ許サレタル領域ナルガ、ソノ實施ニ當リテハ法ノ規定ナク、只刑法第三十五條「法令又ハ正當ノ業務ニヨリナシタル行爲ハ罪セズ。」<sup>(5)</sup>ノ規定ニヨリ、醫師ガ母體ニ切迫セル生命ノ危險ヲ除キ或ハ重大ナル健康ノ障害ヨリ回避セシメ、又ハ産兒ノ生命ヲ顧慮セザルベカラザルガ如キ場合等ニノミ行ヒ得ルモノナルガ、疾患ニ對スル知識、治療方針ハ時代ト共ニ多少ノ變化ヲ被リ、且ツ醫師ノ學識經驗等ニヨリ適應症決定ニ當リテ多少ノ動搖ヲ來サザルヲ得ズ。<sup>(6)</sup>純社會的適應症、強姦ニヨル妊娠、近親相姦ニヨル妊娠等ノ人工妊娠中絶ハ未ダ一般ニ是認セラレザルトコロナルガ、社會的狀態ノ惠マレザル即チ貧民階級、勞働者階級ニアル者ノ、肺結核・心臟疾患腎臟疾患等ノ重篤ナル慢性疾患ニ侵サレタル場合、コレヲ醫學的社會的適應症トナシ、而シテ醫學的適應症ノ範圍ヲ緩和スルコトハ、是認セララルトコロナリ。<sup>(7)</sup><sup>(8)</sup>

#### (イ)、適應症ノ種類

現今醫學的適應症トシテ論ゼラルルモノヲ列擧スレバ、

久慈博士ノ擧ゲラレシモノハ、<sup>(9)</sup>

惡阻

腎臟疾患

子癩

内分泌失調ニヨル諸病

妊娠腎

神經系諸病

急性黃色肝萎縮症

精神病及腦脊髓疾患

肺結核及喉頭結核

血液諸病

心臟疾患

尙ホ此外ニ安藤博士ハ<sup>(10)</sup>

葡萄狀鬼胎

子宮癌、子宮筋腫

急性傳染病

此外ニ山崎博士ハ<sup>(11)</sup>

羊水過多

脚氣

死卵稽留

癩病

妊娠子宮後傾及後屈

舞踏病

妊娠子宮脫出

糖尿病

鼠蹊子宮ヘルニヤ

胎兒ノ常習性死亡

成熟胎兒及產道間ノ空間の不權衡

尙ホ此外ニ林博士ハ<sup>(12)</sup>

胎兒死亡

妊娠中ノ出血

脫落膜炎

子宮附屬器ノ炎焦性疾患

卵巢腫瘍

眼疾患

妊娠浮腫

ヲタニ

皮膚疾患

骨軟化症

氣管枝喘息

靜脈瘤

胃潰瘍

耳疾患

常習性過熟兒

子宮破裂ノ危險

常習性後出血

等多數列擧サル。

余ノ調査結果ニヨレバ、第七表ニ示スガ如ク、

第七表 人工妊娠中絶ノ適應症

適應症	實數	百分比
適應症一種ヲ有スル場合		
腎臟疾患 (妊娠腎臓炎ヲ含ム)	15	23.08%
肺結核 (肺尖カタルヲ含ム)	8	12.31
死胎	12	18.46
葡萄狀鬼胎	6	9.23
前置胎盤	4	6.15
腹膜炎 (結核性腹膜炎ヲ含ム)	3	4.62
心臟疾患	2	3.08
腸チフス	2	3.08
脊椎カリエス	2	3.08
子宮後屈	1	1.54
妊娠脚氣	1	1.54
子宮腫	1	1.54
子宮強出血	1	1.54
其他	2	3.08
適應症二種ヲ有スル場合		
{肺葡萄狀鬼胎核病}	1	1.54
{肺セド一氏核病}	1	1.54
{腎葡萄狀鬼胎患胎}	1	1.54
{心子宮疾患患腫}	1	1.54
合計	65	100.00

腎臟疾患、肺結核及死胎特ニ多ク全數ノ五三八四%ヲ占ム。就中腎臟疾患ハ二三〇八%ヲ占ム。

(ロ)、適應症トソノ中絶月數

最終月經ノ初日ヨリ中絶日迄ノ日數ヲ二八デ除シテ妊娠月數トセリ。同一人ニシテ二種以上ノ適應症ヲ有セル場合ニハ、ソノ患者ノ中絶月數ヲ各々ノ適應症ノ中絶月數トセリ。(第八表參照)

第八表 適應症トソノ中絶月數

適應症	中絶月數
腎臟疾患 (妊娠腎臓炎ヲ含ム)	7.29月
肺結核 (肺尖カタルヲ含ム)	4.31
死胎	5.92
葡萄狀鬼胎	4.09
腹膜炎 (結核性腹膜炎ヲ含ム)	5.74
心臟疾患	4.91
腸チフス	7.03
前置胎盤	7.86
脊椎カリエス	6.00
バセド一氏病	3.00
子宮腫	10.00
子宮後屈	5.73
子宮強出血	7.00
其他	5.00

偕テ、妊娠時ニ於ケル肺結核ノ場合ニ、ソレガ活動性ニシテ且ツ進行性ナルトキニハ、妊娠早期ニ中絶スベキコトハ一般ニ認メラルトコロナルガ<sup>(13)</sup><sub>(14)</sub><sup>(15)</sup><sub>(16)</sub>、今日迄ニ論ゼラレシ中絶時ト豫後トノ關係ヲ見レバ、第九、十、十一表ニ示ス如ク、

第九表 Pankow u. K pferle

人工妊娠中絶月數	1ヶ月 → 4ヶ月	5ヶ月 → 7ヶ月	8ヶ月 → 9ヶ月
例 數	66	15	15
死 亡	1.5%	53%	53%
増 悪	10.5%	13%	18%
無 變 化	16.5%	7%	6%
輕 快	71.0%	27%	23.5%

第十表 Winter

人工妊娠中絶月數	2ヶ月 → 4ヶ月	5ヶ月 → 7ヶ月	8ヶ月 → 10ヶ月
例 數	167	99	36
有 効 例	145	51	9
有 効 率	87%	51%	25%

第十一表 藤村博士

人工妊娠中絶月數	2ヶ月 → 4ヶ月	5ヶ月 → 7ヶ月
例 數	96	9
輕 快	80(81%)	3(33%)
増 悪	4(4%)	} 6(67%)
死 亡	2(2%)	
不 明	10	

何レモ妊娠前半期ノ中絶ガ好結果ヲ示セリ。コレヲ余ノ調査結果ト比較スルニ本調査ニテハ平均四三一月ヲ示シ、早期ニ中絶ノ行ハルヲ知ル。

四、人工妊娠中絶ト妊娠順位トノ關係

出産回数、流産回数、死産回数、早産回数等ヲ合シテ患者ノ妊娠回数トセリ。(第十二表参照)



第十二表  
人工妊娠中絶ト妊娠順位トノ關係

中絶時ノ妊娠順位	實數	百分比
1回目	3	4.62%
2	12	18.46
3	10	15.38
4	9	13.85
5	4	6.15
6	5	7.69
7	6	9.23
8	4	6.51
9	7	10.77
10	0	0.00
11	1	1.54
12	3	4.62
13	1	1.54
合計	65	100.00

即チ二回目ト三回目ノ妊娠ニ行ハレタル場合  
最も多クシテ、三三・八四%ヲ占ム。

五、人工妊娠中絶月數

大正十三年(平均) 六・一七月  
大正十四年(平均) 五・九〇月  
昭和元年(平均) 五・四三月  
昭和二年(平均) 五・一〇月  
累年平均 五・六六月

本調査ニ於ケル人工妊娠中絶月數ハ各年トモ五ヶ月以後ニシテ累年平均ハ五・六六月ナルガ、次第二年ヲ逐フテ早期ニ行ハルル傾向ヲ示ス。

六、妊婦ガ診ヲ乞ヒシ當時ノ妊娠月數

妊娠ノタメ或ハ妊娠ノ疑ヲ以テ婦人科ヲ訪レタル患者ノ最終月經ノ初日ヨリ病院ヲ訪レタル日迄ノ月數ヲソノ患者ノ妊娠月數トセリ。而シテ妊娠ノ確徵ナクトモ妊娠ナラント豫想サレシ患者ヲモ妊娠婦人トシテ計算セリ。(第十三表參照)

即チ最終月經後二ヶ月ヨリ三ヶ月迄ノ間ニ診ヲ乞フ者最も多ク、次イデ三ヶ月ヨリ四ヶ月迄ノ間ニ診ヲ乞フ者多シ。要スルニ二ヶ月ヨリ四ヶ月迄ノ間ニ診ヲ乞フ者ハ、總患者四八四名中二一六名ニシテ、四四・六三%ヲ占ム。次ニ妊婦ガ妊娠五ヶ月以前ニ婦人科ヲ訪問セル場合ト、五ヶ月以後ニ訪問セル場合トヲ比較シミルニ、第十四表ニ

示スガ如ク、

第十三表 妊娠婦人患者ノ診ヲ乞ヒシ當時ノ妊娠月數

	大正13年 8月→12月	大正14年 1月→12月	大正15年 1月→12月	昭和2年 1月→7月	計
1ヶ月1日→2ヶ月	3 (5.9%)	17 (10%)	8 (6.3%)	18 (12.4%)	46 (9.5%)
2. 1 → 3	8 (15.7)	36 (21.2)	32 (25.0)	36 (24.8)	112 (23.1)
3. 1 → 4	9 (17.6)	36 (21.2)	26 (20.3)	33 (22.8)	104 (21.5)
4. 1 → 5	4 (7.8)	17 (10.0)	15 (11.7)	20 (13.8)	56 (11.6)
5. 1 → 6	3 (5.9)	19 (11.2)	8 (6.3)	6 (4.1)	36 (7.4)
6. 1 → 7	4 (7.8)	25 (14.7)	9 (7.0)	11 (7.6)	49 (10.1)
7. 1 → 8	9 (17.6)	11 (6.5)	9 (7.0)	11 (7.6)	40 (8.3)
8. 1 → 9	5 (9.8)	5 (2.9)	3 (2.3)	7 (4.8)	20 (4.1)
9. 1 → 10	6 (11.8)	3 (1.8)	4 (3.1)	1 (0.7)	14 (2.9)
10. 1 →	0 (0.0)	1 (0.6)	4 (3.1)	2 (1.4)	7 (1.5)
計	51 (100.0%)	170 (100.0%)	128 (100.0%)	145 (100.0%)	484 (100.0%)

括弧内ハ百分比ヲ示ス

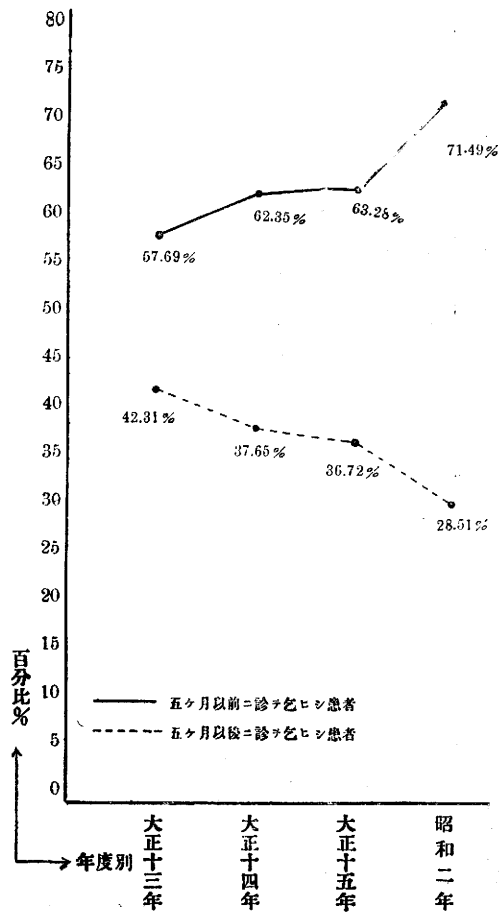
第十四表 妊婦ガ診ヲ乞ヒシ當時ノ妊娠月數表

		大正13年 1月→12月	大正14年 1月→12月	大正15年 1月→12月	昭和2年 1月→12月
妊娠前半期ニ診 ヲ乞ヒシ患者	實數	90	106	81	153
	百分比%	57.69	62.35	63.28	71.49
妊娠後半期ニ診 ヲ乞ヒシ患者	實數	66	64	47	61
	百分比%	42.31	37.65	36.72	28.51
計	實數	156	170	128	214
	百分比%	100.00	100.00	100.00	100.00

各年トモ妊娠五ヶ月以前ニ婦人科ヲ訪問セル者ノ方多シ。今コレヲ年度別ニ見ルニ大正十三年ニハ全數ノ五七六九%、大正十四年ニハ六二三五%、昭和元年ニハ六三二八%、昭和二年ニハ七一四九%ヲ占メ、大正十三年ヨリ昭和二年ニ至ルニ從ヒ逐年〇九三%乃至八二二%ノ差ヲ以テ次第ニ増加セルヲ見ル。即チ妊娠前半期ニ診ヲ乞フ者逐年増

加シ、妊娠後半期ニ診ヲ乞フ者逐年減少セル事實ハ社會衛生學上興味多キ所ナリ。今コレヲ曲線ヲ以テ示セバ、第十  
五表ノ如シ。

第十五表 診察當時ノ妊娠月數年度別曲線



七、人工妊娠中絶患者ノ年齢別及ビ結婚年齢別

人工妊娠中絶患者ノ年齢及ビ結婚年齢ヲ調査シ見ルニ、第十六表及ビ第十七表ニ示スガ如シ。

第十六表

年齢別	人数
20歳→25歳	10名
26 → 30	16
31 → 35	13
36 → 40	9
41 → 45	12
46 →	4
最低年齢	20歳
最高年齢	51歳

第十七表 結婚年齢別

16	1名
17	1
18	7
19	4
20	5
21	10
23	7
23	2
24	1
26	1

即チ年齢ニヨル差異ハ明瞭ナラズ。

結婚年齢ハ一般婦人ノ結婚年齢ト大差ナキガ如シ。

### 八、人工妊娠中絶患者ノ出産回数及ビ兒童數

人工妊娠中絶患者ノ出産回数及ビ兒童數ヲ調査シ見ルニ、ソノ結果ハ第十八表及ビ第十九表ニ示スガ如シ。

第十八表  
出 産 回 數

出産回数	患者數	百分比
0	4	6.06%
1	14	21.21
2	9	13.64
3	9	13.64
4	4	6.06
5	6	9.09
6	6	9.09
7	4	6.06
8	6	9.09
9	1	1.52
10	0	0.00
11	2	3.03
12	1	1.52

第十九表  
兒 童 數

兒童數	患者數	百分比
0	9	13.64%
1	18	27.27
2	8	12.12
3	9	13.64
4	4	6.06
5	8	12.12
6	6	9.09
7	1	1.52
8	1	1.52
9	1	1.52
10	1	1.52
11	0	0.00
12	0	0.00

即チ出産回数ノ最モ少キハ〇回、最モ多キハ一二回ニシテ、一回ノ場合最モ多ク二・二一%ヲ占ム。  
兒童數ノ最モ少キハ〇人、最モ多キハ一人ニシテ、一人ノ場合最モ多ク二七・二七%ヲ占ム。

### 九、人工妊娠中絶患者ノ職業別

人工妊娠中絶患者ノ職業ヲ分類シ見レバ、第二十表ノ如ク、農業者最モ多ク、全數ノ四一・五四%ヲ占ム。  
農業者及ビ水産業者ガ比較的多キハ當病院所在地附近ニ農村及ビ漁村多クシテ、ソノ影響ニヨルモノナラント思ハ  
ル。

第二十表 人工妊娠中絶患者ノ職業別

職業	同中分類	實數	百分比
農業		27	41.54%
水産業		8	12.31
工業		7	10.77
	陶磁器土器製造業	1	
	鍛冶業	1	
	染色捺染漂白業	1	
	樽桶業	1	
	味噌醬油業	1	
	和洋服裁縫業	2	
商業		7	10.77
	蔬菜果物販賣業	1	
	酒類清涼飲料業	1	
	菓子麵麩販賣業	1	
	料理店飲食店席貸業	3	
	行商	1	
公務自由業		7	10.77
	官吏族及社員族	4	
	佛教ニ關スル業	1	
	學校ニ勤務スル者	2	
無職業		3	4.62
不明		6	9.23
合計		65	100.00

一〇、總括

以上ヲ總括スルニ、大正十三年八月ヨリ昭和二年七月ニ到ル滿三ヶ年間に三重縣富田濱飯田病院ニ於テ行ハレシ人工妊娠中絶ヲ統計的ニ觀察スルニ、

(イ) 一、人工妊娠中絶ノ頻度ハ

- 患者總數ノ 〇・一九%
- 女性患者數ノ 〇・三五%
- 婦人科患者數ノ 三・〇七%
- 妊娠婦人數ノ 一三・四三%

ナリ。

二、適應症中特ニ多キハ

腎臟疾患

二三・〇八%

(妊娠腎及ビ眞性腎臟炎ヲ含ム)

死 胎

一八・四六%

肺結核

一二・三二%

(肺尖カタルヲ含ム)

三、肺結核及ビ肺尖カタル患者ノ平均中絶月數ハ、四三・一月ナリ。

四、人工妊娠中絶ハ二回目ノ妊娠ニ行ハレタル場合最モ多ク、次イデ三回目、四回目ニ行ハレタル場合多シ。

五、人工妊娠中絶月數ハ、累年平均五・六六月ニシテ年度ヲ逐ヒテ次第ニ早期ニ中絶サルル傾向ヲ示ス。

六、妊娠セル婦人ノ診ヲ乞フ時期ハ、最終月經後二ヶ月ヨリ三ヶ月迄ノ間最モ多ク、次イデ三ヶ月ヨリ四ヶ月

迄ノ間多シ。而シテ妊娠前半期ニ診ヲ乞フ者逐年増加セルヲ見ル。

七、人工妊娠中絶患者ノ出産回數ハ、一回ノ場合最モ多ク全數ノ二一・二一%ヲ占ム。

兒童數ハ、一人ノ場合最モ多ク全數ノ二七・二七%ヲ占ム。

八、人工妊娠中絶患者ハ、農業者最モ多ク全數ノ四一・五四%ヲ占ム。

(ロ) 人工妊娠中絶ハカナリノ頻度ニアリ。故ニコノ問題ハ今後婦人科の方面ト共ニ、社會衛生學的方面ヨリ尙ホ一

層研究サルベキモノトス。

摺筆スルニ當リ終始御懇篤ナル御指導ヲ賜ハリシ星野教授、村上助教授ニ感謝シ、併セテ材料整理ニ便宜ヲ計ラレシ飯田左三氏ニ深甚ノ謝意ヲ表ス。

一、文 獻

- (1) 久慈直太郎、醫學上ヨリ見タル婦人の。(第三版)
- (2) 島蘭順次郎、脚氣(昭和二年版)。(3) (7) (12) (9) 久慈直太郎、妊娠中絶ノ適應ト條件、診斷ト治療、第一四卷、第五號。
- (4) (8) (10) 安藤畫一、人工妊娠中絶ノ實際問題、東京醫事新誌、二四八三號。(5) 巖松堂書店編輯、新體六法全書、刑法、第一編、第一章。
- (11) 山崎正董、近世産科學續篇、第三版。(13) 柴田保、肺結核ト妊娠中絶、グレンツゲペート、第一年、第三號。
- 結核ト妊娠ニツイテ、診斷ト治療、第一五八冊。(15) 有馬英二、結核ト妊娠中絶問題、診斷ト治療、第一四四冊。
- 核ニ基因スル人工妊娠中絶ノ適應症、診斷ト治療、第一四四冊。(17) 磐瀬雄一、新撰産科學、第六版。
- (14) 吉岡儀三郎、(16) 笠森周護、結